

日本暖地畜産学会報投稿の手引き

2025 年 4 月 1 日一部改正版

原稿執筆に当たっては、投稿規程に従いこの手引きを参考に論文を作成されたい。
論文の区分は次のとおりである。

投稿論文 <原著論文(一般論文)>和文論文・英文論文ともに要約(両言語)をつける。
 <原著論文(短報論文・技術報告)>和文・英文論文ともに要約(本文記述言語のみ)をつける。
 <情報資料>投稿規程第 12 項に従い執筆する。
執筆依頼論文<総説・研究紹介>和文により編集委員会の指示に従って執筆する。

論文の作成方法

1. 原稿作成要領

- 1) コンピュータソフトを用いて作成する。可能な限り、MS-Word 文書 (*.docx あるいは*.doc) による。なお、一太郎で作成した文書はリッチテキスト形式 (*.rtf) に変換する。
- 2) 原稿は原則電子メールの添付ファイルとして日本暖地畜産学会報編集委員会あてに提出する。
- 3) 用紙；A4 サイズの用紙を縦方向に使用し、上下左右 2.5cm の余白を設け、以下の書式に従って作成する。
 和文フォント：MS 明朝（本文，表中，図の表題・説明・図中），MS Pゴシック（表の表題）
 英文フォント：Times New Roman（本文，表中，図の表題・説明・図中），Arial（表の表題）
 ※アルファベット，数字は英文フォント（半角）に，ギリシャ文字（ α , β など）は英文フォントまたはSymbolフォントにすること。
 フォントサイズ：12 ポイント
 和文論文：35 字×25 行の横書き
 英文論文：1 ページ当たり 26 行
- 4) 刷り上がり 1 ページの目安は，和文で 2,000 字，英文で 600 語程度である。
- 5) 文章中の句読点は，コンマ（,）およびピリオド（.）を用いる。
- 6) 数字，英文字は半角を用いる。

2. 論文の体裁

- 1) 表紙：表題，著者名，所属機関名，略表題，責任著者名とその所属機関，所属機関の所在地（郵便番号を含む）電話番号，電子メールアドレス等を 1 枚の用紙に記入し，本文に添付する。
- 2) 本文：要約，キーワード，緒言，材料および方法，結果，考察（結果および考察も可）謝辞の順で構成する。表紙を第 1 ページ，要約を第 2 ページとする。第 3 ページより緒言以下の本文を作成する。連続したページ番号を見易い位置に記入し，行番号をページごとに付け，左余白に記入する。
- 3) 文献
- 4) 図，表
- 5) 図の説明文
- 6) 和文論文には英文要約をつけ，英文論文には和文要約をつける（短報論文および技術報告にはつけない）

原則、1) ～6) の順で 1 つのファイルにまとめて提出する。なお、1 つのファイルにまとめることができない場合は、複数のファイルに分割して提出することも認める。

3. 第1ページ目について

- 1) 論文の区分を記入する。
- 2) 表題：内容を簡潔に表しているものとする。連続論文形式にしない。
- 3) 著者および所属機関：著者全員の氏名とその所属機関を記入する。
 複数の所属機関の場合は，氏名の右肩に算用数字で番号をつけ，所属機関の頭にその番号を表す。所属機関の後にその所在地と郵便番号を記入する。
- 4) 略表題：和文論文は 15 文字以内，英文論文は 6 語以内で表す。

- 5) 責任著者名およびその所属機関と所在地：編集委員会との間で、論文に関して直接、連絡が取れる著者の氏名、所属機関とその所在地、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレスを記入する。

4. 本文について

- 1) 要約 (Abstract)：目的、方法、結果の要点を明瞭かつ端的に表現する。
- 2) キーワード：5 個以内の単語あるいは語句とする。
和文論文については、要約の後に日本語で、英文要約の後には英語で記入する。
英文論文については、Abstract の後に英語で、和文要約の後に日本語で記入する。
日本語のキーワードは50音順に、英語のキーワードはアルファベット順に記載する。
- 3) 本文の書き方：
 - ①論旨の明瞭な論文とする。英語については適正な英文を心がける。
 - ②専門用語は原則として文部省学術用語審議会編「学術用語集」、日本畜産学会編「新畜産学用語辞典」、日本草地学会編「改訂草地学用語集」などにより、難解な漢字はなるべく平仮名を用いる。
 - ③動物の和名は原則としてカタカナを用いる（ヒト、ウシ、ウマ、ニワトリなど）。
 - ④略語は最初に使う所で正式名称を記し、（ ）内に略語を記す。
 - ⑤化学名、物理・化学量は IUPAC の勧告に従う。
単位は原則として SI 単位を用いる。これに含まれないものおよび常用されない単位については、慣用的に用いられているものを使用してよい。例) h, min, sec, °C, mmHg, rpm, Hz, mL, g (重力) など。
数値と単位との間には、%と°Cを除き、半角スペースをとる。例) 3000 rpm, 10 mmol/L, 25%, 37°C など。
 - ⑥ラテン語系副詞および慣用語ならびに学名（動物、植物、微生物の種名に限る）は、*et al.*, *in vitro*, *Bos taurus* などのようにイタリックで表記する。
 - ⑦外国人名は原名つづりで書く。その他の外国語は原字または片仮名で書く。
 - ⑧供試動物の飼育方法および実験方法については、所属機関の動物実験委員会などの指針に従って行われたことを示し、それが不可能な場合には、動物倫理に十分な配慮がなされたことを明記する。
 - ⑨材料および方法の項で製造者を示す場合、会社名、都市名、国名（和文の場合は日本を除く）を表示し、2 回目の引用では会社名のみを示す。

5. 引用文献について

- 1) 引用文献のリストは、次の手順で作成する。
 - ①筆頭著者の姓のアルファベット順に並べる。
 - ②同一筆頭著者による複数の文献がある場合、単著論文を最初におき、次に、複数著者論文を第 2 著者、第 3 著者の姓のアルファベット順に並べる。さらに、同一著者（単複とも）論文は、発表年順に並べる。
 - ③同一著者による単著および 2 名の共著、同一筆頭著者による 3 名以上の共著に同一発表年の文献がある場合、本文中に引用した順に 2000a, 2000b などのようにアルファベットをつける。
- 2) 記述方法
 - ①雑誌名は略さない。
 - ②雑誌に掲載された文献の記載
著者名（全員）、発行年、表題、雑誌名、巻、開始-最終ページの順とする。
例) 神谷裕子・神谷 充・田中正仁. 2007. 高温環境下における乾乳後期乳牛の栄養充足率が血液成分に及ぼす影響. 西日本畜産学会報, 50 : 57-62.
Barroso FG, Alados CL, Boza J. 2000. Social hierarchy in the domestic goat: effect on food habits and production. *Applied Animal Behaviour Science*, 69: 35-53.
 - ③単行本の記載
著者名、発行年、書名、版、引用ページ、発行所、発行地の順とする。なお、分担執筆の場合は編集または監修者名を加える。

例) 阿部 亮. 2001. 新編動物栄養試験法. pp. 566-575. 石橋 晃監修. 養賢堂. 東京.

Folley SJ, Malpress FH. 1948. Hormonal control of mammary growth. In: Pincuss G, Thimann KV (eds), *The Hormones*, vol.1, pp. 695-743. Academic Press, New York.

ただし、編者が単名の場合は、(eds)のかわりに (ed.)を用いる。

④特許の記載

発明者名、発明出願年、発明の名称、特許番号、公開番号または出願番号の順とする。

例) 熊谷 元・平田和男. 2004. タケを利用した飼料に関する特許出願. 特願 2004-219573. (外国の場合、国名等を記載する)

⑤電子資料の記載

電子資料は最新のものを引用し、記載は、発信機関名、発信年、ホームページの名前、機関名、所在地、引用年月日、URL の名前の順とする。

例) (独) 家畜改良センター 個体識別部. 2009. 牛の個体識別情報検索サービス. (独)家畜改良センター, 福島県西白河郡 [引用 2009 年 10 月 5 日].

URL: <https://www.id.nlbc.go.jp/top.html>

National Center for Biotechnology Information (NCBI). 1990. Nucleotide-nucleotide BLAST

(blastn) [homepage on the Internet]. National Center for Biotechnology Information,

Bethesda, MD; [cited 13 December 2002]. Available from

URL: <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/blast/>

3) 本文中での引用

①本文中の引用箇所には、下記のように両括弧付で姓および年号（両者の間に半角スペースを入れる）で示す。

例) 和文論文：・・・と報告されている（神谷ら 2007）。

・・・と報告されている（Minson と McLeod 1970）。

・・・と報告されている（中西ら 1990, 1992）。

・・・と報告されている（下桐ら 2001; 服部 2003; 高山ら 2005）。

英文論文：・・・(Sultana *et al.* 2007).

・・・(Minson and McLeod 1970).

・・・(Minson 1974, 1978)

・・・(Hirata *et al.* 1990; Hirata 1995; Nakanishi *et al.* 2001)

②本文中に著者名を引用する場合、2 名の場合は姓を併記、3 名以上は筆頭者のみ姓を書き、筆頭者以外は和文では“ら”英文では *et al.* と略記する。

例) 和文論文：Minson と McLeod (1970, 1972), Ramli ら (2005)

英文論文：Minson and McLeod (1970, 1972), Ramli *et al.* (2005)

4) 未発表データを引用する場合は、本文中では著者名, unpublished data を記載し、文献リストには掲載しない。

例) (立花ら, 未発表データ), (Ito *et al.* unpublished data) .

5) 印刷中の論文を引用する場合には、そのコピーもしくは電子ファイルを投稿時に添付する。

6. 図(グラフ, 模式図, 写真を含む)

1) 用紙はA4サイズとし、縦または横方向に使用する。

2) グラフ、模式図および写真については、明確に判読できる解像度で作成する。説明語句、数字、記号などは編集可能な（フォントの種類やサイズが変更できる）形式で作成し、フォントサイズは判読可能なサイズに設定する。

3) グラフ、模式図および写真は本文の末尾に挿入、もしくは別ファイルとして提出する。

4) 図にはそれぞれアラビア数字で通し番号を付ける。図のタイトル、説明は本文を参照しなくても理解できるように記述する。その際、記号は †, ‡, §, ¶ を使用し、*, **, *** は P 値を示す時のみに使用する。

5) 図の説明は、和文論文は和文もしくは英文、英文論文は英文とし、図中に記載する。別紙で作成する場合には、番号順に記載する。

6) 本文中の右余白に挿入箇所を指定する。ただし、印刷の都合で希望に添えない場合がある。

7. 表

- 1) 用紙はA4サイズとし、縦または横方向に使用する。
- 2) 表は、編集可能な（フォントの種類やサイズが変更できる）形式で作成する。画像形式（図形式で貼り付けるなど）を用いないこと。
- 3) 表は本文の末尾に挿入、もしくは別ファイルとして提出する。
- 4) 表にはそれぞれアラビア数字で通し番号を付ける。表のタイトル、説明は本文を参照しなくても理解できるように記述する。その際、記号は $\dagger$, $\ddagger$, $\S$, $\P$ を使用し、*, **, *** はP 値を示す時のみに使用する。
- 5) 本文中の右余白に挿入箇所を指定する。ただし、印刷の都合で希望に添えない場合がある。

8. 倫理的配慮について

著者はその研究がそれぞれの機関のガイドラインに従って行われたものであること、もしくは家畜を飼養し、食用利用以外での殺処分や採血などの生体から採材を行う研究については動物倫理に十分な配慮が払われ、動物実験のガイドラインにしたがって機関の承認を得て行われたものであることを明記しなくてはならない（機関が交付した動物実験計画承認番号を記載するなど）。研究が倫理に反していると判断される場合には掲載を拒否することがある。

9. 利益相反について

著者は、その研究が競争的研究助成金、委託研究費、寄付金等の支援を受けて実施された場合には、その旨を本文中（謝辞）に記載しなければならない。

10. その他、原稿の書式などについては、最新号を参照する。

投稿論文の審査と掲載方法

1. 審査手順

原著論文については編集委員会が適任者（審査員）に校閲を依頼するが、必要に応じて編集委員も審査に加わる。

- 1) 校閲の回数は原則として 2 回までとする。
- 2) 審査判定については別途申し合わせる。

2. 掲載順序

審査終了（受理）順に掲載する。

3. 著者校正

著者校正は 1 回とする。指定された期日までに返却がない場合は、掲載を見送ることがある。

原稿提出先(Editorial Board)

〒819-0395

福岡県福岡市西区元岡744

九州大学大学院 農学研究院 動物・海洋生物科学講座

家畜生体機構学分野内

日本暖地畜産学会報編集委員会 西村正太郎

電子メール: journal@waras-org.jp